

ホールご利用時の一般的なマナーについて

(クラシックコンサート为例にして・・・)

どんな場所でも言えることですが、皆さんが気持ちよく催し物を鑑賞するために、様々なマナーやエチケットがあります。ホールの催し物というのは「時間・空間芸術」であり、出演者のみならずお客様のマナーもその一部です。CDやMDは何度でも聞き直す事が出来ますが、コンサートのやり直しは通常ありえません。かといって、気負うことは全くないです。常識的な振る舞いをしていればよいのですから・・・。

それではコンサートの流れにそって基本的なマナーやエチケットを再確認するとともに、簡単にご紹介いたしましょう。

1. コンサートホールへ到着

まず初めに時間の余裕を持って、早めに家を出ることが大切です。夕方のラッシュ、車の渋滞、雨が降ればまた混み合います。

運悪く今日は遅刻をしてしまいました。
どうしましょう？

クラシックコンサートは演奏が始まりますと各入り口の扉は閉じられてしまいます。1曲目の演奏が終わるまで扉の外で待ちましょう。(座席の位置の確認をお忘れなく！) 1曲目の演奏が終わりましたら拍手の間に急いで自分の席に座りましょう。席が扉から遠くて拍手の間に席にたどり着けないと思うときは、扉から一番近くの空いている席に座りましょう。

演奏中の移動は、他のお客様のご迷惑になります。決して移動しないで下さい。休憩になってから自分の席に移動しましょう。

2. 席の確認

十分な余裕を持って到着したら、ホールに入る前に自分の座る席を確認して下さい。ホールには必ず全部の席の配置図が掲げてあります。1列10番、A列10番といったような番号で記されているのが通常です。席を確認しておくことは、遅刻した時、素早く自分の席へ移動するときにも必要になります。

席に着きましたら演奏前(開演前)に携帯電話をマナーモードにし、プログラムを読んでおきましょう。演奏中に読むとカサカサ音がして耳障りです。万が一落としたりするとかなり大きな音がします。また、雨が降っていて傘をホール内に持ち込んだ場合は、自分の席の下に倒して置いてください。

※ 列の中央の人が席へ入るときは、邪魔にならないように立って通路を確保してあげると、とてもスマートに見えます。欧米では一般的なマナーとして浸透していますが、日本でも定着させたマナーのひとつです。

3. 開始の合図／演奏者の入場

開始の合図が鳴り、さあコンサートの始まりです。
これから始まる演奏に期待を込めて拍手しましょう。

4. ソリストの入場

5. 指揮者の入場

6. 聴く姿勢

指揮者が指揮台の上にあがったら拍手をやめ、静かにして演奏が始まるのを期待とともに待ちましょう。

会場のお客様全員が聴く姿勢になることが重要です。会場がザワザワ騒がしいのでは、指揮者はタクト（棒）を振り下ろせません。

7. 演奏中&楽章間

演奏中の私語はとても気になります。これはやめて下さい。

当然ですが、ホール内での飲食はできません。音と臭いがしますし、他のお客様の迷惑です。

※ 小さな子どもは理解できるか我慢できる年齢になるまでは、連れてくるのを遠慮した方が良いでしょう。もちろん小さい頃から良い音楽を聴かせたい気持ちは充分にわかりますが・・・。

演奏曲が交響曲や協奏曲の場合、第3とか第4とかの楽章があります。（協奏曲は通常3つの楽章です。）

楽章と楽章の間には音はありません。しかしながら、クラシックの作曲者は、全ての楽章を合わせて1つの曲として作曲しています。したがって、楽章間では拍手をしない習慣となっています。

全ての楽章が終わったら精一杯の拍手で応えましょう。

8. 演奏の終了／拍手／アンコール

プログラムの曲が全て終わると指揮者は退場します。

素晴らしい演奏でした。演奏が素晴らしければ自然と大きな拍手が出ます。演奏をもう一度聴きたいと思って盛大な拍手が続きます。次のアンコールが楽しみです。

指揮者がアンコールに応え再登場です。

※ ブルックナーやマーラーの交響曲のように1時間以上の長時間演奏の時はアンコールが無い場合が多いようです。

※ ソロや弦楽四重奏団などのコンサートの場合、楽器を持たずに出てきたらアンコールは終わりです。

アンコールが終わりました。退場する演奏者に拍手を送りましょう。最後の人が退場するまで拍手を続けたいものです。

9. 次回の楽しみ

とても楽しい演奏会でした。マナーを守れば他のお客様、そして自分も楽しくスマートにコンサートを聴くことができます。

曲が気に入った！ 演奏者が良かった！ 指揮者がカッコ良かった！

帰り際には、思ったこと、感じたことを家族、友達、彼あるいは彼女と食事をしながら語り合い、イメージを膨らませると、よりいっそう楽しくなりますよ。